

令和元年度全国体力・運動能力調査 笠間市の結果について

《調査の概要》

1. 調査の目的

子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

2. 調査の名称

「令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

3. 調査の対象とする児童生徒

小学校第5学年および中学校第2学年

4. 調査種目（全8種目）

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ

《笠間市平均と全国平均および茨城県平均との比較》

小学5年生

男子…① 5種目（上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、立ち幅跳び）で全国平均以上

② 2種目（反復横とび・20mシャトルラン）で県平均以上

女子…① 全8種目で全国平均以上

② 6種目（握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、ソフトボール投げ）で県平均以上

中学2年生

男子…① 5種目（握力、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ）で全国平均以上

② 3種目（握力、20mシャトルラン、立ち幅跳び）で県平均以上

女子…① 5種目（握力、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ）で全国平均以上

② 4種目（握力、20mシャトルラン、立ち幅跳び、ソフトボール投げ）で県平均以上

《笠間市の課題および学校の取組》

小学5年生

- ・男子は8種目中5種目、女子は全種目で全国平均を上回った。また、都道府県別平均全国第5位（男子）第2位（女子）の茨城県の値を男子は2種目、女子は6種目で上回っており、男女とも高い水準にある。
- ・各学校では、中休みや昼休みに縄跳びやランニング、サーキットトレーニング等の全校運動を実施している。これらの取組が跳力や長距離走力の向上に繋がっているとみられる。
- ・男子では、握力やソフトボール投げに課題が見られる。各学校では、投力アッププランを策定し、運動メニューや環境づくりを行い、投げる動作を積極的に授業や遊びに取り入れ、投力の向上を図っている。
- ・雲梯や鉄棒運動を積極的に取り入れるなどして握力の向上を図っていく必要がある。

中学2年生

- ・男子は8種目中5種目、女子は8種目中5種目で全国平均を上回った。また、都道府県別平均全国第1位（男子）第3位（女子）の茨城県の値を男子は3種目、女子は4種目で上回っており、男女とも高い水準にある。
- ・中学校では走力の向上に努めている学校が多く、その効果は20mシャトルランの記録に現れている
- ・一方、男女共に、上体起こしや長座体前屈に課題が見られる。準備運動時の十分なストレッチの実施や筋力トレーニングを行った後に主運動を行うなどの工夫、個人の運動能力に合わせたトレーニングメニューの作成など筋力や柔軟性の向上に対する取り組みが必要である。

小中学生とも、運動能力には個人差があることから、自分自身で楽しみや課題を見つけ、運動に主体的に継続的に取り組むことが重要である。



学校では動機づけとなるような環境の整備や授業の質を高めるなどして、児童生徒の意欲を引き出し、運動に親しむ態度を養う工夫を行っている。